

ともに生きる 共生

クローズアップ現代+ ルポ 外国人労働者の子ども ～受け入れ拡大のかけで～

放送日:2019年9月18日 放送時間:30分



対象校種 小学校高学年以上 中学 高校

対象教科 社会 道徳

この番組の良さ

● 外国人労働者の子どもたちは今

岐阜県可児市の蘇南中学校では、全校生徒900人中150人が外国籍の生徒で、学校に登校しないケースが増えています。そのため、4か国の通訳が家庭に電話連絡し、先生が家庭訪問をしたり、生徒の学力に応じて補習を行ったりするなど、きめ細やかな対応をしています。可児市では14年前から「ばら教室KANI」を設立し、就学前の3か月間、無料で日本語を教えるなどしており、今後とも増加することが予想される外国人に対して、具体的にどのような対応をしていけばよいかを示唆してくれる番組です。



※6分26秒

● 移民統合政策指数が 38カ国中27位

長野県上田市では外国籍の児童生徒が多く、8カ国語の対応が必要ですが、通訳が見つかりません。人口の5%が外国人の大阪市では、日本語指導者が足りず、待機児童まで発生しています。日本の移民統合政策指数は38カ国中27位と低く、早急な改善が求められています。外国人労働者をこれから必要とする日本人の受け入れ体制や姿勢はどうあるべきかを考えさせてくれる番組です。

番組活用のポイント

● 多文化共生を実現するために どのような態度が求められるのかを考える。

中学校の公民分野における「多文化共生」「多文化社会」の学習での活用が考えられます。グローバル化が進展し、人や物の移動によって多様な文化が広がりを見せています。その際に、国籍や民族、宗教の異なる人々が、互いに文化を尊重し合い、認め合って共に生きていく「多文化共生」について、日本人はどのような態度で対応するべきかを考えることができます。また、日本で暮らす外国人が急速に増えている今、生徒たちは日常生活における身近な問題として捉えることができるでしょう。様々な文化をもった人々が共に生活する多文化社会を築くために、協力して生きていくことの大切さに気付くことができます。

● 多文化の理解を深め、世界的な視野を育てる

映像からは、外国人の切実な声を聞き、生活の実態を知ることができます。外国籍の子供は義務教育の対象外のため、学校を中途退学する生徒がいること、子育てを手伝うために、学校を休む女子中学生や住んでいる地域を日本人以上に愛する外国人の存在。少子化と人口減少により、今後5年間で34万人の外国人労働者の増加が見込まれている日本において、国際理解はどうあるべきかを考えることができます。道徳の「国際理解、国際貢献」の内容項目における活用が考えられます。また、現在日本には、多くの外国籍の労働者が働いており、外国人と共に働くことを前提とした職業観を形成することができるでしょう。



執筆者
能代市立能代南中学校
教諭 嵯峨静人